

Global Express

SAMPLE vol. 3, 2004 October

グローバル・エクスプレス サンプル版 第3号 2004年10月発行 (DEAR News111号付録)

このアクティビティは開発教育全国研究集会(2004年8月7日・福岡市)で実施したものです

アテネ五輪



アクティビティ1: 部屋の四隅

この教材の著作権は(特活)開発教育協会に所属し、本誌の全部または一部を無断で複写・転載・引用・要約することは禁じます。本誌の「生徒用ワークシート」の複写による利用は、学問的な利用、教室・研究会等での利用に限ります。

◆発問の例

Q1. 聖火リレーは、どのオリンピックから始まったでしょうか？

①第2回パリ大会(1900年)

「万国博覧会の付属国際競技大会として実施されました」

②第4回ロンドン大会(1908年)

「有名な“参加することに意義がある”という言葉がこのとき生まれました」

③第7回アントワープ(ベルギー)大会(1920年)

「初めて会場にオリンピック旗が掲げられ、選手宣誓が行われました」

④第11回ベルリン大会(1936年)

「ナチス政権下、ヒトラーがオリンピック大会組織委員会総裁となつて行われました」

Q2. オリンピックを見るときは、必ず日本の選手を応援する？

①必ず応援する

②どちらかと言えば応援する

③どちらかと言えば応援しない

④まったく応援しない、そもそも興味がない

Q3. 在日コリアンが日本チームに入れられないのは仕方がないと思う？

①仕方がない

②どちらかと言えば仕方がない

③どちらかと言えば入るべき

④必ず入るべき

◆目的: アイスブレーキングとしてオリンピックに関する知識や互いの考え・思いを共有する。

◆対象: 小学校中学年以上

◆備品: 特になし

◆所要時間: 10~15分

◆すすめ方

1. オリンピックに関する四択のクイズ題や質問をし、回答ごとに会場(教室など)の四隅に分かれてもらう。
2. どうしてその回答を選択したか、何人かに聞いてみる。
3. 全体の意見を聞いて、どう思ったかふりかえる。

◆Q1のこたえ:④

この大会は、戦争を控え、ドイツの国威発揚を目的としたものだったとも捉えられています。アテネをスタート地点とし、ベルリンまで戻ってくる聖火リレーは盛大に行われ、ドイツの国力を通過する欧州各国へアピールするものでもありました。戦争で侵攻していく際の下見を兼ねていたとの噂もあります。

アクティビティ2: アテネ五輪の「光」と「影」

◆目的: 様々な報道記事を元にアテネ五輪を多面的に捉えること。

◆対象: 小学校高学年以上

◆備品: 「光」と「影」のカードを1グループに1セット、模造紙、マジック

◆所要時間: 60分以上

◆ワークシートの準備について

- ・ 次頁の「光と影」ワークシートを印刷し、カードになるよう切り分ける。
- ・ ワークシートは、両面印刷することで、表面に記事、裏面に記事の出典が印刷されるようにつくられている。
- ・ カードは全部で24枚あるが、時間や参加者のレベルにあわせて枚数を減らしてもよい。その場合、「光」と「影」と思われるもののバランスに配慮すること。
- ・ 書かれている記事の出典は必ずしも記事をそのまま掲載しているわけではなく、要約しているものもある。正確な記事に関しては、出典の新聞記事を参考のこと。

◆すすめ方

1. 参加者をグループ(4~8人程度)に分けます。
2. 「アテネ五輪の光と影」のカードセットを各グループに配り、グループで相談しながら「光」と思われるカードと「影」と思われるカードに分けます。
3. どんなカードを「光」とし「影」としたのか、なぜそう考えたのかなど、グループ毎に発表します。
4. 様々な意見を聞いた上で、どういったオリンピックを開催したいと思うか「理想のオリンピック」をグループで話し合い、模造紙にまとめます。
5. まとめた模造紙をもとに、考えたオリンピック開催案について、全体に向けてグループ毎に発表します。
6. まとめとして、各グループの発表をもとにオリンピックの功罪について全体で考えます。

*「光」と「影」のカードの分類は必ずしも明確な回答があるものではありません。1枚のカードの中に、「光」と思われる要素と「影」と思われる要素が含まれているものもあります。

*各グループを広告代理店と見立てて発表させると発表の仕方にいっそう工夫が見られます。

*参加者の出身地などを冠にし、「〇〇オリンピック開催案」(例:博多オリンピック)と題して行くと、具体的に、盛り上がります。

◆事例

開発教育全国研究集会の実践では、以下の5つの「博多オリンピック」案がつけられました。

①「ばってんよかたいピース・アンド・トーク・オリンピック」

- ・紛争国同士を対戦させ、代わりに1年間の停戦を行う。
- ・オリンピックと同時に国際ユースフォーラムを開催する。
- ・企業ボランティアの参加を促す。

②「出会いオリンピック」

- ・放映権を開放し、誰もが観られて楽しめるオリンピック。

③「お金のかからないオリンピック」

- ・「使わない、つくらない、壊さない」オリンピック。

④「ノーWAR、どんたく」

- ・オリンピック休戦を実現する。

⑤「Kick the BB」

- ・参加者の立場によって「光」は「影」に、「影」は「光」になりうるけれど、あらゆるBorder(国境)やBarrier(障害・障壁)を超えて、参加したい人がみな参加し、観たい人がみな観られるオリンピック。

→ 「グローバル・エクスプレス サンプル版」について

- ・グローバル・エクスプレス・タスクチームが時事問題をテーマにした教材を速報アクティビティとして提案します。
- ・2004年度は「DEAR ニュース」の付録として年5回の発行を目指します(6月、8月、10月、12月、2月)。
- ・このサンプル版は、一定期間経過後、グローバル・エクスプレスのホームページに掲載されます。
- ・速報アクティビティへのご意見・ご提案・実践報告は大歓迎です。
- ・今年度、グローバル・エクスプレス・タスクチームには、ほとんど活動予算がありません。ご寄付も歓迎します。
(ご寄付は、セミナー開催費用、冊子印刷費用、HP維持費、資料購入費などに利用いたします)

特定非営利活動法人 開発教育協会(DEAR)

〒112-0002 東京都文京区小石川2-17-41 富坂キリスト教センター2号館3階

Tel:03-5844-3630 Fax:03-3818-5940 E-mail:main@dear.or.jp URL:http://www.dear.or.jp



1

8月のアテネ五輪開催が日本経済にもたらす波及効果が8856億円に上るとの推計結果を電通が発表。

2

米3大ネットワークのひとつ、NBCが10年冬季、12年夏季の両五輪を一括して放送権22億100万ドル（約2640億円）で契約した。

3

アテネ五輪に向け、選手達に最先端のスポーツウェアを提供しようと、各社がしのぎを削って製品開発と広告キャンペーンを展開している最中、国際NGOであるOxfamは、スポーツウェア産業が過酷で不当な労働条件で働かされている労働者によって賄われていることに対し、「PLAY FAIR キャンペーン」を展開している。

4

北朝鮮と韓国の両選手団はシドニーと同様、同時入場する。その時に流れるのは古歌「アリラン」。

5

「TOP スポンサー」と呼ばれる契約をIOCと結ぶことができるのは世界で11社だけ。

明らかにはされていないが、IOCに支払う費用は、4年間で50～60億円に上るとされる。

6

ドーピング検査は、ソルトレイク五輪から新しい6種類の検査技術が開発された。アテネ五輪は前回シドニー大会から25%増の3500サンプルを検査する予定。

2

朝日新聞夕刊 7月20日
「五輪とテレビ〈中〉」

1

読売新聞 6月4日

4

朝日新聞 6月26日 天声人語

3

オックスファム・ジャパンの
ホームページ
<http://www.oxfam.jp/>

6

朝日新聞 7月19日 スポーツ面
「広がる闇ードーピング④」

5

読売新聞 7月17日 社会面
「アテネへ4ースポンサー企業」

7

五輪開幕まであと25日と迫った19日、アテネ市内から海辺の五輪会場までを結ぶ路面電車（トラム）が開通。

8

アテネ五輪は、大会組織委員長、開催都市の市長がともに女性。ギリシャ政府で五輪担当のパリペトラリヤ文化相代行も女性。五輪の重要なポストを女性が占めていることに、パリペトラリヤ文化相代行は「女性の社会的な地位が向上していく一歩になれば」と語る。

9

陸上女子やり投げの元世界記録保持者のギリシャ人、ソフィア・サコラファ（47歳）が17年ぶりに現役復帰。地元開催のアテネ五輪は古代五輪から続く「五輪休戦」の理想を訴えるチャンスだと感じ、イスラエルとの抗争がやまないパレスチナ代表での出場を決意。ギリシャでは二重国籍を認めており、すでにパレスチナの市民権も得ている。

10

予算10億ユーロ（約1300億円。シドニーの約4倍）、要員7万人。空前の五輪警備を敷くギリシャ政府は、3月に北大西洋条約機構（NATO）に警備への支援を要請。

11

米国人女性で競泳五輪代表としては初めて、アフリカ系選手が女子400メートルリレー要員としてアテネ行きの切符をつかんだ。

12

放送権料の収入のおかげで、アジア、アフリカ諸国の選手の五輪参加が可能になっている。

8

読売新聞 7月18日 社会面
「アテネへ5ー女性進出」

7

読売新聞 7月20日

10

読売新聞 7月13日
「アテネへ1ーテロとの戦い」

9

朝日新聞夕刊 7月1日

朝日新聞夕刊 7月21日
「国境を超えるアスリート①」

12

朝日新聞夕刊 7月20日
「五輪とテレビ〈中〉」

11

読売新聞 7月14日 スポーツ面

13

放送権料の高騰は、ユニバーサルアクセス（スポーツを誰でも見られる権利）というテレビの使命を脅かしている。

14

IOCは5月の理事会で、性別適合（性転換）手術を受けた競技者は、手術後2年を経過するなどの条件付きで五輪参加を認めることを決めた。

15

世界170カ国以上が加盟する非政府組織の自然保護団体「世界自然保護基金」WWF、本部・スイス）は16日、「アテネ五輪に環境の金メダルはなし」と題する報告書を発表した。警備問題や建設の遅ればかりが指摘されてきたアテネ五輪だが、環境保護の面でも大きな問題を残している。

16

アテネ五輪まで1カ月を切ったギリシャで16日、国内の新聞、テレビ記者労働組合が賃上げを求め、2度目の48時間ストライキに突入した。当地では17、18日と新聞が発行されず、テレビのニュースも放送されない状態に陥った。

17

アテネ五輪の期間中、古代オリンピックの慣例にならって世界中で「五輪休戦」を実現しようと、NGO「ピースボート」が14日、東京港・晴海埠頭から「地球一周クルーズ」に出航した。約1000人が参加し、客船「トパーズ号」には、広島・長崎で採火した「平和の火」が積まれた。船体には「戦火を聖火に、めざせ五輪停戦！」の横断幕が掲げられた。

18

10日付の地元紙トビマによると、ギリシャ警備関係者はアテネ五輪でテロの標的となる危険度を、各国選手団ごとに4段階に分類、日本はロシアやスペインなどとともに「2番目の危険度」とされた。「最高の危険度」は米国と英国、イスラエルの3カ国。

14

朝日新聞夕刊 5月18日
読売新聞夕刊 5月18日

13

朝日新聞夕刊 7月20日
「五輪とテレビ〈中〉」

16

時事通信 7月16日

15

毎日新聞 7月18日

18

共同通信 7月10日

17

毎日新聞 7月15日

19

日本オリンピック委員会（JOC）は16日の総務委員会総会で、アテネ五輪日本選手団の警備関連費用として約1242万円を盛り込んだ五輪派遣事業特別会計の1次補正予算を承認した。警備関連費には、日本選手団員として派遣する民間警備会社2人の契約料のほか、アテネで支援役員らが宿泊するホテルなどの警備のため、現地で雇う警備員の費用を入れた。また、各競技団体との情報伝達などのための危機管理システムづくりの費用も含まれた。

20

アテネ五輪で2大会ぶりに五輪に参加するアフガニスタン選手団が、当地で練習を積んでいる。同国初の女性五輪選手となる陸上のルビナ・モキム（17）らが30日、エーゲ海からのそよ風を受けながら競技場で調整した。

男子3、女子2選手はギリシャ側の招きで6月末までレスボス島で、7月にはギリシャ北部のテッサロニキで合宿し、8月にアテネに乗り込む。

21

国際水連（FINA）のラルファウイ会長は19日、アテネ五輪競泳の各日の決勝、準決勝の開始時刻が、当初の午後7時から30分遅い同7時半に変更されたことを明らかにした。アテネ五輪組織委員会、国際オリンピック委員会（IOC）も既に了承しているという。変更の理由について、ラルファウイ会長は「テレビ映像のためには、少しでも日差しが弱まった方がいいと、テレビ局側から要請があった。最高の映像を提供するために協力した」と述べた。

22

日本障害者スポーツ協会は12日、9月のアテネ・パラリンピックに派遣する日本選手団が選手163人、役員107人の計270人になると発表した。

大会はアテネ五輪の施設を使用し、9月17日に開会式を行って28日まで19競技を実施する。

23

オリンピック開幕を前にアテネ市は、野良犬の捕獲やごみの不法投棄に罰金を科すなど、3億ユーロ（約405億円）の巨費を投じた景観対策に乗り出した。五輪開催都市としてイメージアップを図る「美化作戦」だが、飼い主の見つからない犬は街に逆戻り。環境整備も五輪開幕までに間に合わず、費用は市民の懐を直撃しそうだ。

24

高額の大画面テレビや観戦ツアーの販売は出足が好調。景気の回復基調も強まっており、業界は五輪商戦に期待を込めている。

20

共同通信 5月30日

19

共同通信 6月16日

22

共同通信 5月12日

21

共同通信 5月19日

24

朝日新聞 6月17日経済面

23

毎日新聞 7月20日